旧市立病院解体工事説明会　主な質問および回答

≪アスベスト関係≫

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| No. | 質問 | 回答 |
| 1 | 検出されたアスベストのレベル、物質は何か。 | 西棟はレベル1でひる石（クリソタイル、トレモライト）、管理棟はレベル1で耐火被覆材（クロシドライト）です。また、健康診断センターはレベル1で吹き付け材（クロシドライト）です。 |
| 2 | アスベスト作業管理区域は、部屋ごとか。 | 部屋ごとに管理区域を設けます。 |
| 3 | 敷地境界のアスベスト飛散状況はどのように把握するのか。 | 国の基準に則った測定を行い、管理します。 |
| 4 | アスベストの測定は常時測定か、大気捕集しての分析か。 | 大気捕集しての分析です。 |
| 5 | 作業場所からアスベストを運びだすときに、飛散するのはどう防ぐのか。 | 除去したアスベストは作業エリア内で専用袋に詰め密閉します。それをセキュリティーゾーンの前室に運び、専用袋の外側に付着している石綿を高性能掃除機で吸い取り、別の透明袋に入れて二重にして密閉し、その袋をエアシャワーで洗ってから区域外に出しますので、アスベストは飛散しません。 |
| 6 | アスベスト作業場所の負圧管理はどのように行うのか。 | 部屋の空気全てを15分で出し切る性能の集塵機を用い、高性能フィルターを通して部屋の空気を作業区域外に排出します。負圧状態が維持されていることは、差圧計を使って2時間ごとに監視します。 |
| 7 | 高性能フィルターのチェックはどのくらいの頻度で行うのか。 | 高性能フィルターはプレフィルター（場内空気を最初にろ過するフィルター）、一次フィルター（2枚）、二次フィルター、HEPAフィルターの5層フィルター構造となっています。プレフィルターは始業前に交換（1日毎に交換）、1次・2次フィルターは2時間毎（作業時間）に交換しており、作業場内の負圧の維持・外部への飛散防止を徹底しています。 |
| 8 | アスベストの除去作業は強い風が吹いている日は避けた方が良いのではないか。例えば、風速10ｍでは除去作業中止とする決まりとするなどの考えはないか。 | アスベストは全て建物内部にあるため、風によって影響を受けることはありません。なお、台風などの強風時にはアスベスト除去作業に限らず、工事自体が休工となります。 |
| 9 | アスベストはデジタル粉じん計では測定できない。パーティクルカウンターを用いるのか。 | アスベストの測定は作業の前・中・後に浮遊粉じん測定機を用いて４時間行います。これ以外で自主管理として、デジタル粉じん計を用いた測定を行います。ご指摘のとおりデジタル粉じん計についてはアスベストそのものの測定はできませんが、粉じん全体を測定することによって、粉じんが飛散していないかの判断に用いるものです。 |
| 10 | 集塵機は作業の１時間前に動かすと思うが、示された作業時間が８時となっているが、７時から集塵機を動かすということか。 | 集塵機を作動させるのも含めて８時からとしています。 |
| 11 | アスベストやひ素の対策はこの施工方法で100％防げるのか。 | アスベストについては、大気汚染防止法、ひ素については土壌汚染対策法にそれぞれ基準が示されており、この基準にのっとり適正に処理をしていきます。アスベストについては、作業をする場所を隔離し、かつ負圧にすることで外部にアスベストが漏れないようにします。また、一番の飛散防止対策は湿潤化することなので、特に徹底していきます。ひ素については、遮水壁を設置し、汚染土や水が周囲に広がらないように工事を行います。 |
| 12 | 撤去したアスベストはどこに運び、どのように処分するのか。 | 撤去したアスベストはやぶれないようなプラスチック袋で二重に梱包し処分します。今の予定では仙台の処分場で埋め立て処分を計画しています。 |
| 13 | アスベストの低飛散のものは、どのように除去をするのか。梱包の方法や、作業者の衣服に付着したものが飛散しないのか、運び出す車両のタイヤだけでなくボディ部分の洗浄は必要ないのか、二台にはほろがついたものなのか、などを教えてほしい。 | 開口部などを目張りし、湿潤化しながら手で除去作業を行い、粉じんが出ないようにします。廃棄物は、飛散性の高いアスベストと同じようにプラスチック袋に入れ、同等の処理をします。作業着は粉じんが付着しづらいものを着用し、作業部屋から出る際は掃除機で吸い取り、着替えて外に出るようにします。車両にアスベストが付着するということは、この時点で袋が破けていることになってしまいます。車両に積み込む時点で二重に梱包されており、車両にアスベストが付着することはないので、洗浄はしないことにしています。 |
| 14 | 作業場所で梱包したものを外に出すときに、受け渡しのときなどは飛散のおそれはないのか。 | 建屋内で撤去し梱包したアスベストは、建屋内の決めた場所に一時保管します。ここで破損がないか確認し、その後積み込みますので、隔離された作業場所から作業員が直接持って外に出るということはありません。 |
| 15 | アスベストについては、健康被害が生じないと考えてよいのか。 | 作業方法など法令で厳しく決められており、また施工するのもアスベスト除去を専門とする事業者、かつ専門の講習を受けた者が行います。さらには、今回アスベストがあったのは、全て建物内部なので、安全性についてはより高いものとなっています。解体前、解体中、解体後に作業が実施される施設の直近外部において、アスベスト濃度の測定を行い、アスベストが飛散していないことを確認しながら工事を進めていきます。 |
| 16 | 例えば、濃度超過がわかっていれば、子どもに外で遊ぶのを控えるように言えるので、次の日ではなくすぐに出せないか。 | アスベスト撤去は法令に基づき養生がされた管理区画内で行い飛散防止の徹底を図ります。万が一、基準超過が判明した場合は直ちに作業を中止し、近隣の皆様にお知らせします。 |
| 17 | アスベスト濃度の測定結果は公表されるのか。 | デジタル粉じん計の測定結果及び浮遊粉じん測定機による速報値は随時工事現場に設置しているお知らせ看板で示してまいります。併せて、浮遊粉じん測定機による分析結果については月次工程表と合せて近隣の皆様に報告していきます。 |
| 18 | アスベストの測定結果報告は、放射線モニタリングのように、例えば「今日の値」など、もう少し早めにHPなどで出せないか。 |
| 19 | 煙突のアスベストについては、今後調査するようだが、煙突は外部とつながっているが飛散性について、どのように考えているか。 | 煙突のアスベストについては今後含有調査を行いますが、仮に含まれていた場合には養生し隔離した状態でアスベスト除去をしていきます。また、アスベスト除去は建物解体より前に行い、建物にアスベストが無い状態で壊していきますので、建物を解体しているときに煙突を通してアスベストが外に出るということはありません。≪注≫9月26、27日に煙突内部の調査を行った結果、アスベストは含まれていないことを確認しました。 |

≪騒音・振動関係≫

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| No. | 質問 | 回答 |
| １ | 騒音がある程度あるのは仕方ないとは思っているが、周辺には小さい子どもがいる家庭もいるので、心配りをお願いしたい。これは、特に市の方にお願いしたい。 | 今後、現場のすぐ近くに事務所を構える予定です。うるさければすぐに施工業者と調整します。また、工事状況などを月１回ポスティングでお知らせしていきます。 |
| ２ | 騒音と振動の基準はそれぞれいくつか。 | 騒音は騒音規制法で定められている85デシベルです。これは、電車内の音や布団をたたくときの音と同じと言われています。振動は振動規制法で定められている75デシベルです。 |
| ３ | 騒音・振動計の設置場所の選定理由は何か。 | 解体建物に近く、最も大きな音が出そうなところを選定しています。 |
| ４ | 示されている場所と反対側の解体を行っているときは、小さい値となってしまうのではないか。 | 解体工事の進捗によって、設置場所を考慮していきます。 |

≪土壌汚染関係≫

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| No. | 質問 | 回答 |
| １ | アスベストやひ素の対策はこの施工方法で100％防げるのか。（再掲） | アスベストについては、大気汚染防止法、ひ素については土壌汚染対策法という法律があり、それぞれ基準が示されており、この基準にのっとり適正に処理をしていきます。アスベストについては、作業をする場所を隔離し、かつ負圧にすることで外部にアスベストが漏れないようにします。また、一番の飛散防止対策は湿潤化することなので、特に徹底していきます。ひ素については、遮水壁を設置し、汚染土や水が周囲に広がらないように工事を行います。 |
| ２ | ひ素汚染の原因は何かわかっていれば教えてほしい。 | 土地の履歴の調査を行いましたが、旧市立病院が出来る前は田んぼであることが確認されており、ひ素を扱う工場などもないことから、人工的にひ素が存在する理由がなく、現時点では自然由来の可能性が高いとの報告を受けています。 |
| ３ | だいぶ昔は旧市立病院から会之掘川に排水を流していた時期があると思うが、川に対して影響はないのか。 | 旧市立病院から会之堀川への排水については排水処理槽があり、希釈など基準値未満になってから会之掘川に排水していました。 |

≪その他≫

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| No. | 質問 | 回答 |
| 1 | 外構のアスファルトやコンクリートはどの程度壊し、最終的に工事が終わった段階で土が露出するのはどの程度か。風でホコリが舞ってしまうのではないかと心配である。 | 建物部分については解体後、砕石で埋め戻すため土が露出することはありません。また、外構についてはアスファルトの撤去等を令和２年12月から行う計画としているので、工事の全ての期間中で土が露出するということではありません。 |
| 2 | アスベスト以外でも、解体を行うとホコリが舞うと思われるが、散歩などの日常生活には問題がないと考えてよいか。 | 散水しながら躯体を砕いていき、空中にホコリが舞わないように工事をしていきます。100％ホコリが出ないというものではありませんが、近隣の方の散歩など日常生活に支障がないよう対応していきます。 |
| 3 | 焼却炉にダイオキシンがある可能性は。 | 分析を行ったところ、基準値未満でした。 |
| 4 | 家屋調査したが、その結果はいつ出るのか。 | 現在報告書をまとめています。資料が整い次第、お見せします。 |
| 5 | この辺りはもともと沼みたいなところであるが、西棟を解体する際に、東棟に影響はないのか。 | 工事着手前と工事完了後に東棟の調査を行い影響がなかったかどうか確認をします。 |
| 6 | 敷地内に工事車両が入ったときは、エンジンの管理はどのように行うのか。 | 荷おろしなどエンジンを掛けながら行わなければならない作業がありますが、駐停車する車両はエンジンを切るようにします。埼玉県生活環境保全条例によって、アイドリングは禁止されているので、徹底していきます。 |
| 7 | 既存建物の杭が打ち込んであると思うが、これはどうするのか。新本庁舎の建設ではまた杭を打ち込むことになると思うが、それを踏まえてどう考えているのか教えてほしい。 | 既存杭については引き抜いた場合、地盤に影響が出る可能性があるため、現在の場所に残置する計画としています。新本庁舎の建設の際には、既存の杭と干渉しない場所に新たな杭を設置する計画としています。 |
| 8 | 壊す順番は決まっているのか。敷地境界のブロック塀などは壊さずに残すということでよいか。 | まず南側の磁気共鳴診察室、事務棟、看護師宿舎を解体し、そのあとに西棟、管理棟という順番を現段階では考えています。今後、月ごとの工程表を事前に周知していきます。病院敷地のブロック塀については侵入防止のため、解体工事では壊さず、新本庁舎の建設工事で撤去します。また、敷地周囲に設置する高さ３mの鋼板の仮囲いについても、解体工事終了後もそのまま設置し、新築工事で使用する計画としています。 |
| 9 | 市役所通りと陸橋通りの交差点は旧病院と反対側は歩道がなく、非常に狭いところがあり、通行が危険な個所がある。搬出入の際には、事故が起きないよう十分配慮してほしい。 | 現場の出入口には交通誘導員を配置して、工事車両の誘導を行い、歩行者と一般車両の保護に努めます。 |
| 10 | 一日何人ぐらいの作業員が出入りし、それに伴って車両がどのくらい出入りするのか。 | 工事関係者の通勤車両としては約10台くらいです。これらの車両は朝７時から７時半くらいに現場内に入り、夕方５時半から６時くらいにかけて現場からでることになります。作業員は、一番多い時期が内装解体を行っている期間となりますが、30～40人です。躯体の解体作業に入ると20人程度になります。 |
| 11 | 今日のような解体工事の説明会はまた行われるのか。また、７月30日に行われた説明会ではどのような質問が出たのか。 | 解体工事に関する説明会は、今回のみとなりますが、説明が必要であれば職員もしくは施工業者が説明に伺います。７月30日の説明会では、アスベストと騒音・振動についての質問が多かったです。アスベストについては、撤去時の安全性など今日と同様の内容でしたので、回答も同内容です。他に、騒音・振動については、具体的にどのくらいの音、揺れなのかといったご質問がありましたが、騒音は85デシベル以下が規制の基準値であること、同様に揺れは75デシベルであると回答しました。 |